

平成28年9月12日(月)

老球の細道266

トップアスリートと読書

会津バスケットボール協会 室井 富仁

人生は人との出会い、本との出会いで決まる。私はそう信じている。スポーツ選手と読書は本来ミスマッチのように思われているが、トップアスリートとなると状況は変わってくる。ある本にこのことについて面白いことが書いてあった。まさにわが意を得たり。

【スポーツの世界は力と力の対決であり、運動能力で決まり、素質で決まると考えている人が多いかもしれない。しかし、それでまれに一流になれることはあっても、超一流にはなれない。超一流の人たちは何が違うのか。それは他人によく学び続ける人であること、本を読み続ける人であること。伸び続ける人たちにとっては、スポーツの分野に限らず、音楽、ビジネス、全ての分野で共通する原則である。

若いときから注目され続けていた人でも、他人に学ぶことを忘れ、人の話を聞くこともできず、本に学ぶこともできない人は、トップアスリート、超一流であり続けることは不可能となる。アメリカのスポーツ界に次々とヒーローを輩出していることで有名なスタンフォード大学は文武両道の大学としても世界的に有名な学校である。ゴルフのタイガー・ウッズ、テニスのジョン・マッケンロー等も学び、またバスケットボールでも超有名校である。この大学のスポーツ選手は、スポーツばかりではなく勉強も一生懸命やり、本も読み、そして人生を楽しんでいる。この大学のスポーツのコーチ達が学生選手に望むのは何かというと、素質以上に『他人に教わり、それを取り入れ伸びていく力』があること。運動能力以上にこうした性格を重視する。だから、本も読まない、他の世界も知らうとしない学生は受け入れられない。

なぜ、こんなにトップアスリートを目指す人に本を読むべきだと言うのか。それは、スポーツ選手の試合でのプレーはすべて人格、人間性の反映だからである。トップアスリートはただ勝つだけではいけない。見る人に感動と夢を与えなければならない。その感動と夢は人生に対する取り組み方、毎日の生活に対する取り組み方がしっかりしている人にして初めて大きなものになる。だから本を読んで人間としての力量を上げ、プレーも感動を呼ぶものにしなければならない】

本気で物事に取り組んでいる人には必ずいつか「壁」が立ちはだかる。トップアスリートを目指す者には当たり前通過儀礼である。「壁」は向上心のある人にしか出てこない。前進をさぼっている人には永遠にやっばこない。

「壁」に出会ったらどうしたらいいだろう？心配することはない。解決はすべて本の中に隠されている。本の中には、自分の知らないことを全て知り、自分がやりたいことを全てやりきった凄い人たちがたくさんいる。自分もそうなりたいと思うし、是非やってみたいと思う。このように、読書は、自分を変えたい、自分を良くしたい、自分のわかっていないところ、足りないところを補い、良いところを伸ばしてくれる。

最後に、この本は面白いダジャレのネタを提供し、寝た(ネタ)子を起こしてくれる。「スポーツというものには、よく“好調”“不調”って言葉が使われる。スポーツには波がつきものだと思うかもしれないが、そんなことはない。たとえ波に巻き込まれても、心まで流されないために本を読む。そうやってできたのが本物の調子。“本調子”という」。